**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」  ・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選  会員及び一般部門　エッセイ募集：  2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ  原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。  ※パワーポイント使用可。  【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。  ※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開  入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。  青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　統一は為に生きる所から始まる**

**お名前：　今中　誠真（イマナカ・ノブマサ）**

(下記より本文をご記入ください)

＜前がき＞

私は名前の通り日本人ではありますが、２年前までは８年間韓国に留学しておりました。２０１５年の時に初めて韓国へ留学に行き、２０２２年末に韓国留学から日本へ帰ってきました。その留学の期間の中で多くの喜びから葛藤までを感じながら、最終的には私の人生の中で韓国という地が第二の故郷ではなく、第一の故郷のようにまで感じるようになりました。

今日はその留学というあまりにも貴重な体験と実際に日本へ帰ってきてから感じた出来事を通しながら、日韓の統一のみならず世界の平和統一は必ず成せるという確信をお伝えしていければと思います。

＜韓国人との出会い＞

私はそもそも韓国とは無縁な男でした。日日家庭の中で生まれながら、韓国の国旗がどんな国旗なのかもあやふやな状態でありました。そんな中一番最初に韓国人と出会ったのは高校生の時でした。在日韓国人の息子である高校の同級生の子が「朝鮮人」と言われ虐められている姿を見たのが最初の韓国人との出会いでありました。「朝鮮人」という言葉に今まではそんなに気にかけたこともないのに、私はその言葉が悪い言葉として使われていることは感覚的にわかりました。まだ幼く、右も左もわからなかった私は人を思う気持ちや共感性が足りてなく、その時に私もその言葉を同級生に使い始めました。つまり人として絶対にやってはいけない「虐め」をしていたのです。今思えば、その子の人生に深い傷を負わせてしまい、蹂躙してしまったことを今になって反省し、悔いております。私の中での韓国人との出会いはそれくらい苦い思い出と申し訳ない思い出が詰まっております。このような場所でこんなことをカミングアウトすること自体が、この場では相応しくないかもしれませんが、私の人生の中でそのような出来事がなければ、今の私もないだろうと感じているので話せていただきました。

＜留学に至るまで＞

そんな中、ある日私は心から尊敬している大切な人を事故で失う日が来ます。私は高校生の頃、あまりこの世から見ても良くない少年でした。そんな私を気にかけてくれ、愛してくれた師匠がおります。その方がある日突然事故で亡くなりました。その時に私はその尊敬していた人が成したかったことを代わりに成してあげたいと思ったのです。しかし蓋を開けばその尊敬している方が韓国人でありました。私は韓国人と聞くと虐めていた同級生を思うくらい、心の引け目を感じていたのであります。心の中で、 “よくわからないけど”韓国人を受け入れることができていませんでした。しかし亡くなった師匠の様になりたいと母に伝えたら一言“韓国に留学したらその人のようになれる”と言われました。ますます心は裂かれましたが、私の中で決意した“尊敬していた人が成したかったことを代わりに成してあげたい”という気持ちを強く持ち、韓国の留学へと旅立ちました。

＜韓国留学へ＞

韓国留学をしてみて、一言「私はただの世間知らず」でした。ただ韓国を「知らなかった」だけなんだということに気がつき、同時に自分の過ちを悔い、私の中で平和や統一について考え始めるきっかけとなったのでした。韓国に留学をしてみて一番初めに感動したことは「言葉」です。挨拶が全て相手を主体としていることに感動をしました。「アンニョンハセヨ」は「安寧にしてください」、「パブモゴッソヨ」は「ご飯食べましたか？」です。他にも様々、相手が主体となる挨拶がほとんどです。私はオーストリア、ルーマニア、チェコリパブリック、フィリピン、マレーシアなどの国に行ったことがありますが、こんなにも人を思いやる気持ちが溢れている国はみたことがない程の温かみを感じました。言葉もそうですが、特には韓国人達の言葉のニュアンスとその人柄です。日本人を蔑む気持ちは全くありませんが、仲良くならないと家族のように思えない国が日本だとすれば、韓国は根本的にみんな家族だと考えているのです。言葉にも表れています。赤の他人に「お兄ちゃん」、「お姉ちゃん」を日本では普通使いません。しかし韓国では普通なのです。それくらいの温かみを持っている韓国での生活の中で、私は韓国人を虐めていた昔の自分に釘を刺し、消してしまいたいくらいの気持ちも同時に溢れ出ていたのです。韓国人と仲良くなればなるほど、申し訳なく思っていました。心の葛藤を抑えきれず、落ち込むことも多々ありました。時には我知らず涙を流している時もありました。そんな時に出会ったのがソウルで行われていたピースロードという大会の代表者の挨拶の言葉でした。その人は「昔日本が嫌いだった」という言葉から始まり、「今では日本を愛している」という人生を送っていました。私は気になり、耳を傾けていると、尊敬していた師匠が尊敬していた韓国人の人をその挨拶をしている人も尊敬していると言っていたのでした。私はその人の生き方を知りたくなり、勉強をし始めました。勉強してみて感じたことがあります。それは「この人は罪もないのに日本から多くの迫害を受けながらも、日本を誰よりも愛してきた男だ」ということを感じました。私はその人に会ってみたかったですが、私が高校生の時に亡くなったみたいです。その方の人生を知れば知るほど、私の過去をも愛してくださる人がいるんだということに気づき、その方の生き様のように生きたいと思った私でした。その生き方は極シンプルな考え方でした。「為に生きるという所から平和は始まる」ということでした。私の留学はこの「為に生きる」という精神を心と体で学び感じることができた期間であったとも言えます。

＜日本へ帰ってから＞

留学を終え、日本に帰ってから、ある日、韓国人に文句をつけているお爺ちゃんを見かけました。そのお爺ちゃんは歴史的にみても韓国と日本は一つになれないと断言していた方でした。そこで「韓国人は日本から出ていけ」と言われている韓国人の姿はとても悲しそうでした。そんな韓国人に昔の私では絶対に言えなかった一言を言いました。それは「私は韓国が好きです」という一言でした。なぜそれを言えたのかと言うと、それは「ために生きる所から平和は始まる」と言う留学の時に出会った今は亡き韓国人の生き様と出会えたからです。

＜韓日統一への確信＞

私は「平和」や「統一」を考えたこともなく、できると信じてなんかいなかった私がここまで変われたと言うことは、世界も必ず平和になれるし、日韓統一も色々な難しさがあっても必ず一つになれると言う確信を得ることができた留学期間でした。年齢問わず、留学は本当にお勧めします。

ありがとうございました。